

保健体育科学習指導案

学 級：3 年 1 組 3 2 人

場 所：吉田南中学校体育館

指導者：教諭 指宿 凌

1 単元名 球 技「ネット型（バレーボール）」

2 単元の目標

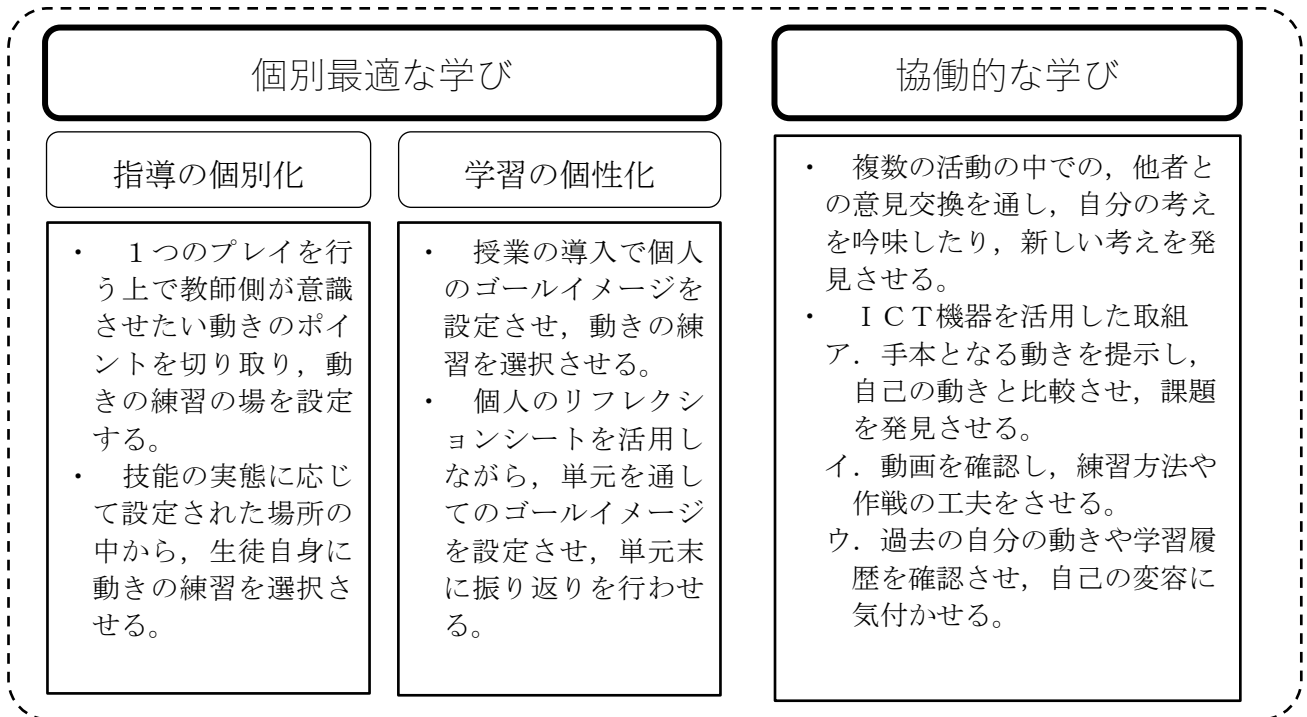
知識及び技能	思考力，判断力，表現力等	学びに向かう力，人間性等
<p>勝敗を競う楽しさや喜びを味わい，技術の名称や行い方，体力の高め方，運動観察の方法などを理解するとともに，作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。</p> <p>イ ネット型では，役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるようにする。</p>	<p>攻防などの自己やチームの課題を発見し，合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。</p>	<p>球技に自主的に取り組むとともに，フェアなプレイを大切にしようとする事，作戦などについての話し合いに貢献しようとする事，一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする事，互いに助け合い教え合おうとする事などや，健康・安全を確保することができるようにする。</p>

3 評価規準

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○知識</p> <p>① 球技の各型の各種目において用いられる技術や戦術，作戦には名称があり，それらを身に付けるためのポイントがあることについて言ったり書き出したりしている。</p> <p>② 戦術や作戦に応じて，技能をゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントであることについて言ったり書き出したっている。</p>	<p>○技能</p> <p>① ボールを相手側のコートの中を空いた場所やねらった場所に打ち返すことができる。</p> <p>② 攻撃につなげるための次のプレイをしやすい高さや位置にボールを上げることができる。</p> <p>③ ポジションの役割に応じて，拾ったりつないだり打ち返したりすることができる。</p> <p>④ ラリーの中で，味</p>	<p>① 選択した運動について，合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して，成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。</p> <p>② 健康や安全を確保するために，体調や環境に応じた適切な練習方法等について振り返っている。</p> <p>③ 球技の学習成果を踏まえて，自己に適した「する，みる，支える，知る」などの運動を継続して楽しむための関わり方を見付けている。</p>	<p>① 球技の学習に自主的に取り組もうとしている。</p> <p>② 一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを大切にしようとしている。</p> <p>③ 互いに練習相手になったり仲間に助言したりして，互いに助け合い教え合おうとしている。</p> <p>④ 健康・安全を確保している。</p>

	<p>方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーすることができる。</p> <p>⑤ 連携プレイのための基本的なフォーメーションに応じた位置に動くことができる。</p>		
--	------------------------------------------------------------------------------------------	--	--

4 「個別最適な学び」に着目した「授業デザイン」について



5 指導と評価の計画

単元の目標	知識及び技能		勝勝を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。 イ ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるようにする。									
	思考力、判断力、表現力等		攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。									
学びに向かう力、人間性等		球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする事、作戦などについての話し合いに貢献しようとする事、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする事、互いに助け合い教え合おうとする事などや、健康・安全を確保することができるようにする。										
時次	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	授業づくりのポイント	
	1		2					3				
学習の流れ	0	挨拶 出欠確認及び健康観察 準備運動 ドリルタイム										<ul style="list-style-type: none"> 三つの資質・能力をバランスよく指導する。 学習資料の活用やICTの活用を通して、個に応じた課題が設定できるようにする。 自己や仲間の課題解決を図ることができるように練習の場や教材、教具を工夫する。 生徒の振り返りを充実させるために、ロイロノートやリフレクションシートを活用する。
	10	<ul style="list-style-type: none"> ○オリエンテーション ・歴史、特性 ・授業の約束事の確認 ・チーム編成 ・ドリルタイムの確認 ・レディネステスト 	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的なボール操作 ・オーバーハンドパス ・アンダーハンドパス ・スパイク ・サービス 	<ul style="list-style-type: none"> ○空いている場所を攻撃する練習 ・スパイク ・サービス 	<ul style="list-style-type: none"> ○空いている場所を作り出す練習 ・オープン攻撃 ・Aクイック ・囷となる動きを用いた攻撃 	<ul style="list-style-type: none"> ○自己やチームの課題を解決するための練習 						
	20						<ul style="list-style-type: none"> ○仲間とパスを続けるための練習 ・対人パス ・円陣パス 	<ul style="list-style-type: none"> ○攻撃に対応して守る練習 ・レセプション ・レシーブ ・ブロック 				
	30		<ul style="list-style-type: none"> ○自分の課題を分析し、課題を解決するための練習 ・スパイク ・サービス ・レシーブ 	<ul style="list-style-type: none"> ○チーム総当たりのリーグ戦 ・審判の行い方 ・正規のルールに基づいたゲーム ・自チームや相手の分析 ・試合の運営 								
40	<ul style="list-style-type: none"> ○タスクゲーム ・キャッチゲーム ・キャッチトスゲーム ※4人対4人で対戦 	<ul style="list-style-type: none"> ○タスクゲーム ・キャッチゲーム ・3回返球ゲーム ・サービスゲーム ※6人対6人で対戦 	整理運動 学習の振り返り 次時の確認									
評価機会	知	①								②	総括的な評価 リフレクションシート 観察 リフレクションシート、観察 観察、リフレクションシート	
	技				①		②	③	④	⑤		
	思			①	②				③			
	態	④	②	①		③						
単元の評価規準	知	① 球技の各型の各種目において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて言ったり書き出したりしている。 ② 戦術や作戦に応じて、技能をゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントであることについて言ったり書き出したりしている。										
	技	① ボールを相手側のコート上の空いた場所やねらった場所に打ち返すことができる。 ② 攻撃につなげるための次のプレイをしやすい高さや位置にボールを上げることができる。 ③ ポジションの役割に応じて、拾ったりつないだり打ち返したりすることができる。 ④ ラリーの中で、味方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーすることができる。 ⑤ 連携プレイのための基本的なフォーメーションに応じた位置に動くことができる。										
	思	① 選択した運動について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。 ② 健康や安全を確保するために、体調や変化に応じた適切な練習方法等について振り返っている。 ③ 球技の学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を継続して楽しむための関わり方を見付けている。										
	態	① 球技の学習に自主的に取り組もうとしている。 ② 一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを大切にしようとしている。 ③ 互いに練習相手になったり仲間に助言したりして、互いに助け合い教え合おうとしている。 ④ 健康・安全を確保している。										

6 本時の実際（4/10）

（1） 本時の学習目標

- ・ ボールを相手側のコートの中やねらった場所に打ち返すことができるようにする。
【技能】
- ・ 健康や安全を確保するために、体調や変化に応じた適切な練習方法等について振り返ることができるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】

（2） 研究の取組

ア． 個別最適な学び

- ・ 導入の段階で、学習目標に対する個人のゴールイメージを設定させ、目的をもって意欲的に学習に取り組ませる。
- ・ 1つのプレイの動きに対して、生徒がつまずくと考えられる動きを切り取り、その動きを高める練習方法を複数設定し、個人の技能に応じて練習方法を選択させる。

イ． 協働的な学び

- ・ チームでのアドバイス学習や話し合い活動を通して、他者と意見交換をすることにより、自分の考えを吟味させたり、新しい考えを発見させたりする。

(3) 展開

過程	時間	形態	学習活動	指導上の留意点	
導入	10	一斉	1 学習の準備や安全点検をする。 整列・挨拶・健康観察をする。 2 準備運動を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 用具や練習場所の安全確認を行う。 ・ 出欠、健康状態の把握、見学者への指示を行う。 ・ 使用する部位を意識しながら行わせる。 	
		グループ	3 ドリルタイム（類似の運動）を行う。 ・キャッチボール ・スパイクスイング ・円陣パス ・スパイク		<ul style="list-style-type: none"> ・ 運動の行い方のポイントを意識させながら行わせる。 ・ スパイク練習では、個人の技能に応じたネットの高さでスパイクを行わせる。
		一斉	4 学習課題・学習の流れを確認する。 スパイクでネットよりも高い位置でボールに触れるためには、どのような体の動かし方を意識すればよいだろうか。 ・ リフレクションシートを用いて、前時の自己課題を確認し、本時のゴールイメージをもつ。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習課題・学習の流れを理解させる。 ・ 技能の確認やリフレクションシートを活用し、本時の学習課題を明確にさせ、ゴールイメージをもたせる。
展開	20	グループ・個人	5 スパイクの動きの意識するポイントを分析する。 ・ スパイクの動きの一部分を切り取り、その動きに対して意識するポイントの分析を行う。 【切り取るスパイクの動き】 → 助走から踏切まで	<ul style="list-style-type: none"> ・ スパイクのリズム、約束事などを確認し、着目する視点をもとに分析を行わせる。 【着目する視点】 I：踏切時の足の着き方 II：ボールに対する入り方 ・ 個人の技能に応じて練習方法を選択させ、練習を通して分析を行わせる。 ・ タブレットや掲示資料を参考にしながら、動きの分析を行わせる。 	
		グループ	6 分析した内容をチームで共有する。 ・ チーム内で、分析したことを発表し合い、動きのポイントを理解する。		<ul style="list-style-type: none"> ・ チームごとに、分析したことを共有し、スパイクの意識するポイントを確認させる。
		グループ	7 成果練習を行う。 ・ ドリルタイムで行ったスパイク練習を行う。 ・ 内容を個人で選択し、成果練習を行う。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習課題を意識して成果練習が行えているか確認する。 ・ 仲間の動きを見て、助言や賞賛をしているか確認する。
終末	8	一斉・個人	8 学習の振り返り・まとめを行う。 ・ 練習を通してどのように課題を解決できたかリフレクションシートにまとめる。 (学習のまとめ) ネットに対し斜めから助走をし、踏切時に足をハの字にして助走の勢いをブロックし、腕の振り上げや膝のばねを使って上へ大きく跳ぶとよい。 (生徒の表現例) 助走の勢いを前ではなく上へ向けるために、踏切時に足でブロックするとよい。	<ul style="list-style-type: none"> ・ リフレクションシートに「本時で学んだ知識・技能」を記入させる。 	
			9 次時の学習内容・学習課題を確認する。 10 整理運動を行う。 11 健康観察・片付け・挨拶を行う。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 次時の課題を確認させ、見通しをもたせる。 ・ 整理運動時に体調に変化がないか確認する。 ・ 後片付けを指示し、確認する。